

石川潤一 町長 初の

「対話」と「協働」で「元気」なまち

町長就任後、初の定例会となる3月定例会で、石川潤一町長は議案提案に入
そして主要施策について述べました。



循環センターの液肥散布

毎年の予算書を分かりやす
くまとめた冊子を平成19年
度より全戸に配布し、皆さ
んから納めていただいたお
金の使い方を評価できる仕
組みを構築していきたいと
考えています。

役場の機構については、
町民にとって簡素でわかり
やすく、また職員にとつて
能力を発揮しやすく、多様
な課題に柔軟に取り組める
ような組織再編を、平成19
年度中に行っていきたいと
考えています。

さらには、行財政運営の
徹底した見直しです。

今後は、いかに限られた
財源を効率よく使うかであり、
サービスが同じであれば「よ
り安く」、経費が同じであれ
ば「より質の高いサービス」
を提供するのが行政の責務
であり、そのために職員は
常にコスト意識と町民サー
ビスの向上を目指して、事
業や取組みを改善していく
意識を持ちながら、その能
力を最大限に発揮してもら
いたいと考えています。

☆「世界に誇れる循環のまち」
をつくります

生ゴミやし尿、浄化槽汚
泥をバイオマス資源として
活用する「くるるん」を全
国との交流拠点として最大
限活用していきます。

また、循環のまちづくり
を築く次の段階として、平
成19年度には「もったいな
い宣言」を行い、町民との
協働により、すべてのゴミ
の資源化を目指します。

具体的には、平成19年度
から、粗大ゴミ、資源ゴミ
のリサイクルセンターにお
ける日常収集を開始し「使
えるものはリユース、資源
化できるものはリサイクル」
を徹底することで、平成17
年度に比べ、ゴミを36%減
らすことを目標にします。

さらに、平成20年度を目
標にビニール・プラスチック
の分別収集を開始し、平
成21年度にはゴミの量を平
成17年度比70%減らすこと
を目標にします。

町民の皆さんとの協働に
よる生ゴミ、し尿、浄化槽

汚泥の資源化は、今までの
ゴミ処理費用に比べ、町の
財政負担の軽減につながり
ますが、この財源を町民の
まちづくり活動資金や環境
教育などに充て、有効に活
用していきます。

☆職員を校区に配置し、助
け合いの地域をつくります

町民の皆さんと連携して、
互いに助け合い、支えあ
う地域社会の形成に努めてい
きたいと考えています。

そのため、各小学校区に
地元の役場職員を配置し、
誰でも参加できる「校区ま
ちづくり会議」を創設します。

その先頭に立つ職員は、町
地域の行事などに積極的に
参加し、地域の課題、住民
の考え方やニーズの把握に
努め、そのなかで地域問題
を掘り起し、町民の皆さん
と一緒に「自ら考え、
自ら行動する」ことを通して、
地域に愛着と誇りをもてる
まちづくりを目指します。